

事故防止に向けた安全対策

【 ホッケー 】

1 競技特性

55m×91.4mのフィールドで行う11人対11人のゴール型競技である。スティックでボールを操作し、試合時間は前半35分、後半35分の70分で実施する。最大の特性はゴール前方に14.63mのシューティングサークルがあり、そのエリア内で攻撃側がシュートしたボールがゴールに入れば得点となる。また、そのシューティングサークルで守備側が反則すると攻撃側にペナルティーコーナー(PC)が与えられる。そのため、そのエリア内の激しい攻防によるスティックの打撲骨折や接触プレーによる転倒、捻挫、擦過傷など、またシューティングエリア内にセンターリングされるボールスピードが速いため(約150km)ボールによる打撲、骨折、切創などの負傷者がいる場合がある。また、スティックの長さは約100cm、重さ約700gのカーボン素材でボールは周囲が22.4cm、重さが156gのゴルフボールを拡大した物(大きさは野球の硬式ボール)である。そのためスティックもボールも堅く重くヒットされたボールスピードは脅威である。スティックをスイングした時やヒットされたボールによる打撲骨折や歯牙損傷等が多い。また、接触プレーも激しく転倒による捻挫、脳震盪、熱中症などがある。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
・マウスピース・スネアテの未着用 ・PCマスクの故障 ・スティックの破損 ・グラウンド整備不備	歯の欠損、骨折 骨折 裂傷、失明 捻挫、骨折	・使用前に空気圧を適切な値に調整する ・練習や試合開始時の確認 ・使用時の確認 ・使用時の確認 ・使用時の確認と事後の整備

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
・ボール保持者へのDF時にボール保持者がスティックを振り上げた際、DFに接触する危険性がある。	捻挫、打撲、擦過傷、骨折 歯の欠損	DFに危険性を認識させ、接触しない方法をきちんと指導する。

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
・高温多湿の環境下や長時間にわたる練習による熱中症 ・暗い中の練習	熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病 捻挫、打撲、擦過傷、骨折 歯の欠損	・環境状況に応じた運動、休憩、水分補給等の計画を立てる ・照明設備の整備